No.141 低分化癌(甲状腺癌の転移)

熊本市医師会検査センター　三浦令子

①症　例：60 歳代　男性

②既往歴：2002 年　　個人病院にて、甲状腺濾胞腺腫

2010 年 7 月　国立病院にて、両側肺底部に計 3 個の結節陰影＋＃7 リンパ節腫大を観察

2010 年 8 月　大学病院にて、＃7 リンパ節生検

2014 年　　左下葉肺底部の腫瘤増大による無気肺治療のため当院紹介され TBAC 施行

血液検査特記すべき所見なし

③臨床経過：－

④検　　体：TBAC

⑤細胞診所見

中～大型で N/C の上昇や核形不整、大型好酸性核小体を有する異型細胞が孤在性～小集団で多数出現。一部に核分裂像や核内封入体も見られる。

⑥組織所見

肺の組織生検では壊死が強く診断には至らなかった為、＃7 リンパ節生検の組織を示す。類円形の核と好酸性の強い胞体を持った腫瘍細胞が胞巣状～充実性、一部コロイドは含まないものの小濾胞状に増殖している。腫瘍内には血管の発達が目立ち、ムコイド基質や腫瘍細胞の血管周囲性の放射状配列を伴っている。腫瘍細胞は少数であるが核内封入体や核分裂像が見られる。免疫染色は、TTF-1・Thyroglobulin（+)、Synaptophysin・CD56・HBME-1 一部(+)、ChromograninA・SSTR(-)、MIB-1index5～10%である。組織像と免疫染色の結果から甲状腺低分化癌のリンパ節転移を疑う。

2010 年 12 月に摘出された残存甲状腺は濾胞癌であった。

⑦鑑別点

Ⅱ型肺胞上皮：立方状の 2 核の細胞で、核が偏在し、明瞭な核小体を有する。

異型腺腫様過形成：小～中型で、核内封入体のある結合の緩いシート状集団で出現する。

腺癌：中～大型で核の偏在する異型細胞が、腺腔配列を示す集団で出現する。

扁平上皮癌:N/C の上昇やクロマチン増量のある異型細胞が流れのある集団で出現する。

小細胞癌：小型で N/C の非常に高い異型細胞が、散在性～鋳型状配列の集団で出現。

大細胞癌：結合性が弱く、淡い細胞質を有する大型細胞で、くびれ状の著明な核形不整が見られる。

文献

実用細胞診トレーニング